


SCHOOL DATA

〒290-0232 市原市皆吉933-2  
 TEL.0436-92-0022 FAX.0436-92-4452  
 ■児童数/365人 ■教職員数/20人 ■周辺環境/住宅地、水田 (平成20年5月1日現在)



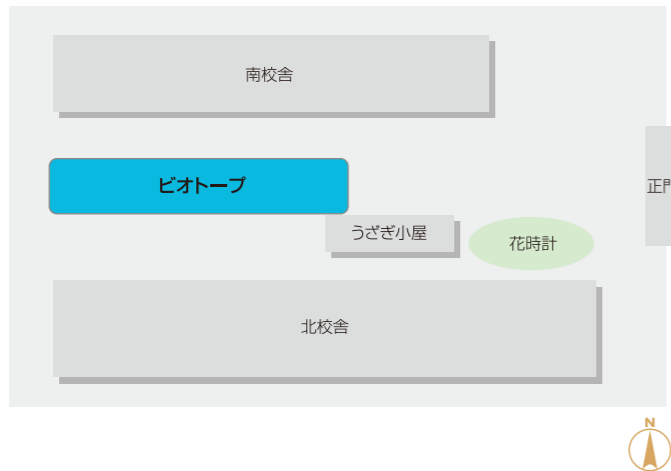

ビオトープの森

## ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/300㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2001年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/教職員  
ネイチャー委員会の児童

### <コンセプト>

ビオトープは、地下からくみ上げられた水を循環させた池と周辺に植樹された樹木や水辺植物で構成されている。ビオトープには遊歩道や橋がある。児童が水生生物や樹木とふれあうことにより、自然の仕組みを理解し、心豊かで優しい子が育つことを期待している。また、この地域は養老川と水田に囲まれ、地域の自然を理解する手助けとなることを目指している。



### 生息している生物

**植物:**カキノキ、ネムノキ、スタジイ、ビワ、タラノキ、ヒメガマ、ヤブマメ、ジュズダマ、ムラサキシキブ、エノキ、アカメガシワ等  
**動物:**フナ、メダカ、ヒメダカ、タイリクバラタナゴ、アメリカザリガニ、ドジョウ、タニシ、ヌマエビ、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル等

### 今後生息させたい生物

学区内のきれいな水の流れに生息できるカワニナが生息できるようにし、ホタルの幼虫も生息できるようにし、ホタルが学校敷地内で舞うようにしたい。



小川の観察



植物の観察

## ビオトープの活用方法

### ■児童

1・2年生は生活科でビオトープに棲むザリガニやメダカの観察を行う。5年生は水槽でのヒメダカの観察とともに、ビオトープに生息するメダカの観察を行う。ネイチャー委員会がビオトープの管理や児童集会で全校への報告をする。

### ■保護者、地域住民

年に2度、自然観察会を行い、児童とともに学区内の動植物を観察したり、ビオトープを観察する。

## ビオトープの効果

### ■児童への効果

地域の生物とその生息環境を観察することにより、地域の自然により理解を深め、環境についての意識を高める。また、日常的に動植物にふれあうことにより、命の大切さを理解し、優しい心を持つことができる。

### ■教職員への効果

生活科、理科、総合学習の教材として、効果的に活用することができる。

### ■保護者、地域住民への効果

地域の自然を学校内に移すことにより、自然観察会の時に自然環境を身近に感じることができる。また、学校へ来ることにより、学校への理解も促進される。

## 保護者、地域との連携

### 保護者

年3回の奉仕作業の際に、ビオトープの除草作業や遊歩道等の修理や整備に協力していただく。

### 地域環境保全隊

ホタル観察会などに加えて、ホタル育成のための連携を図っていききたい。

## 整備・活用・管理等の課題

これまでは水の循環が悪く、水質の管理が十分にできなかったため、今後はネイチャー委員会の児童を中心に管理をしていくようにする。また、除草作業や樹木の手入れは教職員・保護者を中心に管理体制を整備していく必要がある。

ソーラーシステムは晴天時しか作動せず、雨天、曇天が続くと水が濁るため、蓄電池を取り付け、天気の悪い日も作動するようにしていきたい。

## 今後の展望

地域の自然を保護したり、地域の環境をよりよくしようと活動する団体と協力して、地域の自然保護と児童と地域のふれあいの場としていきたい。

## 整備を担当した教員の感想

今までのビオトープは、水の循環が悪く、管理も十分に行われず、また浅い川の流れも枯渇していたので、水生生物の観察が十分にできなかった。しかし、本事業により、今までついていたポンプとソーラー式のポンプのおかげで水の循環が良くなり、水生生物の観察が容易になった。

今後も水の管理をきちんと行い、児童の自然観察の場として活用していきたいと考える。



生息する生物の説明